



除草剤により街路樹のケヤキが被害を受けました

～やむを得ず伐採します～

- 5月23日の道路パトロール中に国道157号白山市白山町地先の街路樹のケヤキ1本が枯れ始めているのを発見しました。
- ケヤキの幹や枝葉を採取して、検査機関で検査したところ、除草剤に使用される「グリホサート」が検出されましたので、人為的によるものと疑われます。
- 樹木医の診断によると、このケヤキはほぼ枯れてしまった状態であり、撤去が必要との診断結果となりましたので、近日中に伐採処理することとしました。

1. ケヤキの状況

枯れたケヤキは道路建設当時の昭和58年頃に植えられたものと推測され、現在の高さは約12mです。

ケヤキの根元にはドリルのようなものであけた、直径1.5センチメートル、深さ5～6センチメートルの穴が4箇所確認できました。

5月23日の道路パトロール中に、多数の緑色の葉が歩道に落ちているのを発見し、以降観察を続けたところ、枝についている葉も徐々に枯れ始め、現在では、ごく一部の枝を除いてほとんどが落葉しています。

周辺にも多数のケヤキが街路樹として植えられていますが、枯れているのはこの1本だけです。

2. 今後の対応

日常の道路パトロールで同じ事が起きていないか、重点的に点検を行います。

枯れたケヤキをそのまま放置しておくことと倒木の恐れがあるため、準備が整い次第、伐採作業を行います。

【問い合わせ先】

国土交通省北陸地方整備局 金沢河川国道事務所

加賀国道維持出張所長 澤山 雅則

Tel: 076-276-0797

別紙

【写真①】 国道157号を白峰方向に向かって撮影 手前が枯れたケヤキ



【写真②】直径1.5センチメートルの穴



【写真③】40センチメートル程度の高さに穴

